

ISSN 0912-9383

老人病研究会年報



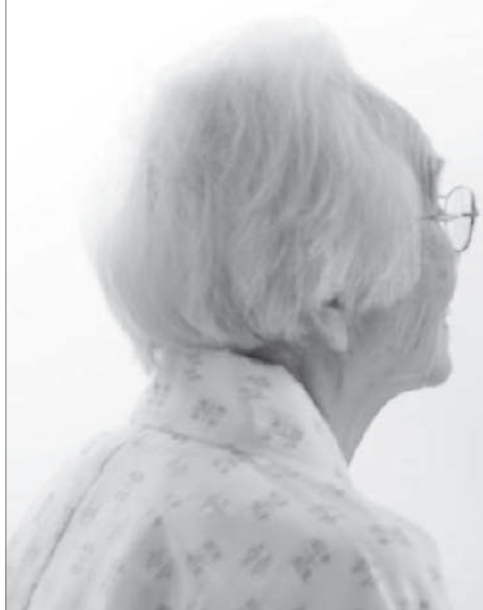
—健康長寿社会を目指して—

Annual Report No.37
2015

一般社団法人 老人病研究会
<http://www.gochojunet.com/>



生きる希望をつなぐ仕事です



“フレアス在宅マッサージ”は北海道から沖縄まで【44事業所】を展開。

集合研修による「基礎技術の均一化」をはじめ、ICTを駆使したネットワークによる

施術者間での「知識や技術の共有」や、事業所の枠を超えた「合同カンファレンス」など、

直営だからこそ実現できる取り組みを進め、在宅医療のリーディングカンパニーを目指しています。

「在宅マッサージ入門」より抜粋 ワンポイントアドバイス

Q.在宅マッサージとはどんなマッサージ??

→A.在宅マッサージを必要とする患者様は、自らの力では医療機関に通院することが困難なため、医師から「往療を必要とする」と診断されています。そのような患者様には共通して、血行不良や筋緊張、疼痛、筋力低下、ADLの低下などの廃用性・退行性的変化が見られます。在宅マッサージでは東洋医学の技術と現代医学の知識を融合し、医療介護のサービスと連携しながら施術をしています。心身ともに患者様を癒し、高齢社会を明るくするものにする、それが在宅マッサージなのです。



詳しくは…



『今すぐ始めたい人の 在宅マッサージ入門』

株式会社フレアス代表取締役 澤登 拓著
定価（本体3,000円＋税）

株式会社 フレアス

東京本部：〒108-0073

東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 22F

☎ 0120-938-841

施術者
募集中

4月以降も求人応募受付中
見学や面接は上記窓口まで

フレアス初の“女性特化型鍼灸院”開設!!

マタニティケア・
アロマトリートメント鍼灸院
～Luna Mare～

港区南青山にOPEN

ルナマール

検索



訪問未経験者歓迎☆マッサージ師採用情報はHPにて→

フレアス

検索

人としてのクオリティ

一般社団法人老人病研究会会長 川並 汪一

当法人会員のみなさま如何お過ごしでしょうか。皆様のご支援ご協力によりここに年報第37号をお届け出来ますことを嬉しく存じます。

さて、本部の武蔵小杉を中心とした「健康の集い」は3回開催しました。旧年度までは入場無料でしたが、今年度からは年会費の値上げと共に、「健康の集い」は資料代500円をお願いいたしました。

興味深いことに、受講者数はこれまでの最高となる130名を記録しました。この結果は、講演会は「無料だから参加するのではない。興味ある「話題」だから参加する。」ことが明らかとなりました。今や一般市民は「クオリティ」を重要視する時代になったといえましょう。



「クオリティ」といえば、高齢者にとって「人格のクオリティ」を維持して生活できることが夢です。「ボケ」もかわゆい程度であればともかく、度を越すと自分の「ヒトとしてのクオリティ」を失い、無残な晩年になりかねません。認知症予防と治療対策が望まれます。

「認知症対策」として厚労省は「新オレンジプラン」を公表しました。もしこの対応策にGold-QPD鍼灸師を投入したと仮定しましょう。医師に辿りつくまでの間、介護士と看護師が手出しの出来ない治療面を補いながら、見事な役割を果たしてくれるでしょう。

私どもの認知症Gold-QPD育成講座を卒業したGold-QPD鍼灸師は、認知症の患者さんに本来のクオリティを取り戻すお手伝いが出来るエビデンスを積み重ねてきました。その結果、文科省の委託事業として大変見事な多職種連携教材を完成し全国に配布致しました。

このたび当法人は、Gold-QPD鍼灸師に地域を元気にするようお願いすることにしました。認知症を心配するご家族に予防法と治療の相談役を買って出て頂くため、彼らのリストを公表する企画です。全国のGold-QPD鍼灸師の検索サイトを近く完成する予定です。

当会会員の皆様にとり納得ゆく目標を目指して事務局一同は精進努力してまいります。新年度もご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

年報 No.37 目次

巻頭言 人としてのクオリティ	会長 川並 汪一	…1
----------------------	----------	----

● 報 告 ●

報告 1 老人病啓発活動報告

公開講座“健康の集い”関係		3
スタートから足掛け 12 年、今後の展望	(一社) 老人病研究会理事 千代 勝彦	…4
認知症公開講座関係 講演とシンポジウム		5

報告 2 第 6 回認知症 Gold-QPD 育成講座が開催されました

ブロンズコース開催報告		7
シルバーコース開催報告		7
第 6 回認知症 Gold-QPD 育成講座の初日一般有料公開講座 西洋医学と中医学による統合医療鍼灸コラボレーション治療 開催報告		8
2025 年問題に対する平成 26 年度文部科学省委託事業の総括と今後の展望	(一社) 老人病研究会常務理事 兵頭 明	…9
認知症予防と治療 (I)	Gold-QPD 推進本部代表 川並 汪一	…12
認知症予防と治療 (II) Gold-QPD 鍼灸師へ	Gold-QPD 推進本部代表 川並 汪一	…13
Gold-QPD と認知症 介護現場からのメッセージ	NPO コミュニティ・ケア・ネットワーク 廉隅 紀明	…15
お知らせ 国際商標登録の完了	会長 川並 汪一	…18

報告 3 平成 26 年度 その他の事業

☆エッセイ☆

老年よ、大志をいだけ	一般財団法人博慈会老人病研究所所長 福生 吉裕	…21
武蔵小杉キャンパス・病院・研究所の変貌と武蔵小杉地区の発展	理事 湧口 泰昌	…22

☆平成 27 年度事業計画☆

一般有料公開講座ポスター／第 7 回認知症 Gold-QPD 育成講座ポスター／認知症専門鍼灸師の検索サイト／24	
一般社団法人老人病研究会 会員名簿／25	
編集後記／26	

報告

1

老人病啓発活動報告

老人病啓発活動

公開講座“健康の集い” 関係

この講座は武蔵小杉地区の住民を対象に、毎回テーマを変えて実施しているものです。

講演者は、日本医科大学武蔵小杉病院の医療関係者が中心です。平成26年度は、3回の講演会を実施しました。講演内容の要旨は、ホームページで開催報告として掲載されています。

第21回「健康の集い」報告

「脳卒中治療の最前線～治せる脳卒中」

講演者

日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科准教授

足立好司先生

- ・日時：平成26年5月31日（土）14：00～16：00
- ・ユニオンビル（富士通労働会館）・・・武蔵小杉駅徒歩3分
- ・参加人数：38名
- ・協賛：田辺三菱製薬株式会社

5月25日～31日は、あたかも脳卒中週間（日本脳卒中協会設定）で、新聞やテレビでは脳卒中の啓発



の記事や番組が多く見られました。足立好司先生にご協力を頂きました。

脳卒中の疫学、病態、外科手術や薬物療法治療の最前線、予後、さらには予防まで幅広く紹介されました。要約は、

（一社）老人病研究会のホームページに掲載されています。

第22回「健康の集い」報告

「認知症：知っておくべき基礎知識」

講演者

- ・認知症患者のケアと環境について

日本医科大学武蔵小杉病院看護部 窪田裕子氏

・認知症～診断と治療の今～

日本医科大学武蔵小杉病院神経内科 石渡明子氏

日時：平成26年11月29日（土）14：00～16：00

場所：富士通ユニオンビル（武蔵小杉駅徒歩3分）

参加人数：75名

協賛：エーザイ株式会社

第23回の講座は、「認知症：知っておくべき基礎知識」をテーマに、演題を二つにしました。ケアや介護の立場から、認知症専門看護師の窪田弘子氏が、診断と治療、さらに予防について、石渡明子医師に協力して、学生の大いに盛り



窪田裕子氏



石渡明子氏

会の最後に北村伸先生（老人病研究会常務理事、日本医科大学武蔵小杉病院神経内科教授）が講演会の総括と街ぐるみ認知症相談センターでの認知症早期発見の活動を紹介しました。

要約は、（一社）老人病研究会のホームページに掲載されています。

第23回「健康の集い」報告

「高齢者の排尿のトラブル～原因とその解決方法～」

講演者：日本医科大学武蔵小杉病院泌尿器科 部長

堀内和孝先生

日時：平成27年2月15日（日）14：00～16：00

場所：富士通ユニオンビル（武蔵小杉駅徒歩3分）

参加人数：130名

共催：アステラス製薬株式会社、中原区医師会

講演は泌尿器に関わる幅広い話となりました。泌尿器（腎臓・膀胱・前立腺）のしくみから始まり、正常な排尿とは、過活動膀胱、腹圧性尿失禁、前立腺肥大症、前立腺癌、高齢者の尿失禁などについて話されました。

講演が始まる前に約 10 人の方々、更に終了後、10 人以上の方々から質問が寄せられ、堀内先生は、解りやすい言葉で答えて下さいました。健康の集いで初めて泌尿器疾患を取り上げました。高齢者の排尿トラブルについて極めて関心が高く、活気ある講演会となりました。



公開講座「健康の集い」

スタートから足掛け 12 年、今後の展望

（一社）老人病研究会理事 千代 勝彦

第一回が開催されたのが 2004 年 7 月で、今年で足掛け 12 年になります。それまでは川並会長が日本医科大学の教授職の傍ら、老人病研究会の副会長として地域の高齢者の方たちを対象に「ご長寿ネットワーク」を組織して病院関係者を連れて“健康座談会”を各所で開催して地域の高齢者とコミュニケーションを図っていたのがそのルーツになります。その懇談の中から“自分お健康は自分で守る”必要から、健康啓発活動の必要性を痛感して、まもなく「健康の集い」がスタートすることになりました。

第一回は 2004 年 7 月、テーマは「老人性痴呆くぼけにならないために」で、武蔵小杉病院神経内科の北村伸先生が講師となって開催されました。現在では“認知症”という言葉が一般社会の中で定着しておりますが、当時は老人性痴呆の後ろにくぼけという言葉がポスターに入れたほどでした。丁度地域住民の間では関心が高まりつつあったテーマであり、武蔵小杉病院でも北村先生を中心として力を入れていた部門でした。このときは約 100 名の参加者があり、北村先生から早期発見・早期治療が一番大事ということが、解り易く、繰り返し説明されました。

認知症のテーマは、それ以降も 7 回開催されております。その過程で日本医科大学武蔵小杉病院に“街ぐるみ認知症相談センター”が開設され、又認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症に関する専門医療相談・診療をするようになったことは感慨深いものがあります。

「健康の集い」のテーマは、メタボリック症候群、糖尿病、高血圧症、心臓・脳・消化器・精神・皮膚疾患、東洋医学など多岐にわたっております。講師の方々には、ほとんどが武蔵小杉病院で診療に当たっている先生方の協力によります。

昨年度の第 23 回のテーマは、「高齢者の排尿のトラブル」で、市民の関心は高く、130 名以上の参加者があり、席を補充するほどでした。

既に 23 回の健康の集いが開催されており、一回に約 100 の参加者がありましたので、2000 名以上の市民が参加されたことになります。

「健康の集い」の広報については、新聞数社とタウン誌に紹介をしてもらっています。更に近隣の町内会の回覧板・掲示板にポスターを配布するほかに、病院や地域包括センターでのポスター掲示もお願いしております。

（一社）老人病研究会の事業目的のひとつに、「高齢者の健康増進及び確保のための啓発」があります。高齢者の医療においては、QOL の維持・向上が第一義となります。病気を知ることによって自分の健康は自分で守る、更には食事・運動・リハビリまで市民のニーズを汲み取ったテーマで開催してゆきます。

本年度から、年間 4 回と回数を増やし、益々充実した啓発講演会を開催し、地域住民の方々にお役に立ってゆく所存です。関係者のご支援とご協力をお願いするものです。

認知症公開講座関係 講演とシンポジウム

この講座は、認知症に焦点を当て、テーマを決めたシンポジウム形式で開催しております。従って複数の演者が、各々の専門領域から話をし、演者間及びフロアーから質疑応答をし、パネルディスカッションをして、シンポジウムとして総括を行っています。平成26年度には、東京の江東区にある講演会場で、2回の公開講座を開催しました。

「認知症シリーズ：第1回」

テーマ：「認知症早めの気づきと多職種との連携による予防と緩和治療」

一般社団法人 老人病研究会は、川崎市を離れ東京都で初めて表記の講座を開催しました。

日時：2014年6月8日（土）14：00～16：30

場所：学校法人敬心学園 臨床福祉専門学校 講堂
〒135-0043 東京都江東区塩浜 2-22-10、地下鉄東西線東陽町下車徒歩10分

共催：一般社団法人老人病研究会、学校法人敬心学園、学校法人後藤学園、エーザイ株式会社、クレヨンソフト株式会社

後援：日本医科大学武蔵小杉病院、セイリン株式会社、株式会社医大サービス

【第一部：基調講演】認知症早めの気づきと早期介入
日本医科大学武蔵小杉病院神経内科教授
北村伸先生

【第二部パネルディスカッション】

「介護家族から見た認知症～認知症の進行と介護家族の心理」：臨床心理士川西智也氏（日本医科大学街ぐるみ認知症センター）

「鍼灸は認知症対策を担えるか？」 敬心学園日本柔整鍼灸専門学校学科長 青木春美氏

「認知症への鍼灸治療の導入で看護師のできること」
社会福祉法人和楽会 今真由美氏

パネルディスカッションの司会は、川並汪一会長と兵頭明常務理事で行われました。

西洋医学と東洋医学との融合に関して、最後まで



ホットなディスカッションがなされました。最後に「患者さんに喜ばれる・お役に立つ医療」を目指して、多職種の関係者が努力する必要性が認識されました。要約は、(一社)老人病研究会のホームページに掲載されています。

「認知症シリーズ：第2回」

テーマ：「認知症を支える家族の安らぎ」

一般社団法人 老人病研究会は、東京で第2回目の講座を開催しました。

日時：2014年10月5日（土）14：00～16：30

場所：学校法人敬心学園 臨床福祉専門学校 講堂
〒135-0043 東京都江東区塩浜 2-22-10、地下鉄東西線東陽町下車

共催：一般社団法人老人病研究会、学校法人敬心学園、学校法人後藤学園、株式会社舞浜倶楽部、新宿漢方クリニック

【第一部：基調講演】「介護者と家族の葛藤」

筑波大学大学院人間総合科学研究科
水上勝義教授。

【第二部：パネルディスカッション】

(1) 東洋医学の認知症治療とは 後藤学園中医額研究所所長 兵頭明先生

(2) アルツハイマー型認知症の父について (症例と介護) 木村敦子氏

(3) レビー小体型認知症の母について (症例と介護) 佐川聖子氏

今回のパネルディスカッションは、以下のごとくまとめられました。

- 1) ご家族の生の声、生の映像を提供できたこと
- 2) 鍼灸の効果を提示できたことで所期の目的を満たせました。
- 3) 鍼灸は施術者自身の温かい話しかけが重要な意味を持つこと
- 4) 患者さんご本人に笑顔が戻る周囲の環境づくりが大切なこと



要約は、(一社) 老人病研究会のホームページに掲載されています。

NPO 法人 コミュニティ・ケア ネットワーク

代表 廉隅 紀明

千葉研究室 千葉県浦安市弁天 1-7-12 TEL 047-720-4500
 本部 東京都大田区上池台 5-7-22-101 TEL 090-2643-4373
 e-mail : kadosumi@gmail.com

報告 2

認知症Gold-QPD関係

第6回認知症 Gold-QPD 育成講座が 開催されました

認知症の予防と治療に特化した
認知症専門鍼灸師の育成講座

ブロンズコース開催報告

◆日程：平成 26 年 10 月 25 日(土) 9:00~12:00、10 月 26 日(日) 9:00~16:30

◆場所：日本医科大学同窓会 「橘桜会館」ホール

◆受講生：鍼灸師 9 名（今回から医師も受講生の対象に決定した）

(1) 西洋医学系：25 日午前のカリキュラム。

認知症：気づき、中核症状、周辺症状、薬物療法、対処法、終末期ケア…日本医科大学武蔵小杉病院 岸泰宏教授

高齢者に多い認知症と精神科疾患…筑波大学大学院 人間総合学研究科 水上勝義教授

(2) 東洋医学系：26 日の午前・午後

三焦鍼法の技術的標準化トレーニング：河原保裕講師（埼玉県鍼灸師会長）、韓景猷講師

中医学理論（高齢者の生理・病理と老化メカニズム）：兵頭明常務理事

認知症の弁証論治—代表的な中医鍼灸治療：高士将典講師（東海大学医学部大磯病院）

認知症の常用穴、20 穴紹介とそれぞれの応用：兵頭明常務理事

西洋医学系、東洋医学系も各々テストがあり、全員がクリヤーした。受講終了後、全員に終了証が与えられた。



シルバーコース開催報告

◆日程：平成 26 年 11 月 22 日(土)、11 月 23 日(日) 2 日間

◆会場：1 日目(株)舞浜倶楽部 新浦安フォーラム 千葉県浦安市高洲 1-2-1

2 日目学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校 東京都大田区大森北 4-1-1

◆参加者：既にブロンズコース（10 月 25,26 日）修了者 8 名

第 1 日目：認知症患者との接遇・交流、ケアと介護の実際、家族との交流



* 介護の現場から認知症高齢者のケアについて 北嶋学施設長

* 鍼灸施術の現場見学：上垣内敬司鍼灸師

* 施設案内：廉隅紀明常務理事、北嶋学施設長、筑後看護課長

* 現場スタッフからのコメント：筑後看護課長

* 入居者のお話、交流：看護・ケアについての自由討論：参加者全員

第 2 日目：実修トレーニング

取穴・刺針、MMSE・ADL の検査など「実技」がメインの研修



第6回認知症 Gold-QPD 育成講座の初日一般有料公開講座：

西洋医学と中医学による 統合医療鍼灸コラボレーション治療 開催報告

日 程：平成 26 年 10 月 25 日(土) 14：00～17：00

場 所：日本医科大学同窓会 「橘桜会館」ホール

参加者：ブロンズコース受講者 11 名、一般参加者 90

名 計 100 名余の参加

基調講演：認知症鍼灸法の開発者 韓景献先生(天津中
医薬大学教授 元第一医院院長

三焦鍼灸法(開発者韓景献)は、健康長寿の考えが
ベースにあり、脳老化や骨の老化に対しての効果が
確認されている。座長川並会長と韓景献先生との間
でやり取りをしながら講演した。三焦鍼灸法の開発に
つながったプロセス、臨床効果の最新データが紹介
された。続いてボランティア・モデル 2 名を対象
に鍼灸施術のデモンストレーションを行った。

川並会長から「Gold-QPD 卒業生による実績報告」



韓景献先生



施術のデモンストレーション

として受講者総数、認定者による実績報告、三焦鍼灸法
を実施した患者数、成果の報告論文や記事等が紹介
された。



株式会社 医大サービス

(学) 日本医科大学の関連会社として活動しています。

日本医科大学エンブレムグッズ・記念品の作成・販売、学生ホール・付属病院
売店・武蔵小杉病院コンビニ・多摩永山病院コンビニの経営、人材派遣、業務
委託、損害保険、自動車保険等、大学や病院のサービス全般の仕事を行って
おります。お気軽にご相談下さい。

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-4-14

日本医科大学弥生 2 号館 1 階

TEL 03-5803-9111 FAX 03-5803-9112

e-mail: is01@nms-is.com

2025 年問題に対する 平成 26 年度文部科学省委託事業の総括と今後の展望

～成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業～

一般社団法人老人病研究会常務理事
学校法人後藤学園中医学研究所所長 兵頭 明

文部科学省戦略的基盤研究・社会連携研究推進事業の一端として日本医科大学老人病研究所、川崎市、社団法人老人病研究会の共催により 2009 年に川崎市で開催された「認知症国際フォーラム・漢方と鍼灸による予防と治療」において、鍼灸と漢方薬とが認知症の予防・改善にきわめて有効である事実が報告された。

その成果を踏まえ、一般社団法人老人病研究会は、認知症専門医と高齢者入居施設連携（医療・介護連携）により、学校法人後藤学園の協力のもとで認知症患者に寄り添う鍼灸専門人材の育成講座（Gold-QPD 育成講座）を開催し、この 5 年間で 91 名の認知症対応型の優秀な鍼灸専門人材を育成してきた。

現在、彼らは在宅、通所介護施設、高齢者入居施設で認知症患者に寄り添いながら、全身調整をベースとして認知症患者の痛みを含む多くの不定愁訴の改善、ADL の改善を全人的・総合的な角度からサポートしている。認知症患者本人の苦痛緩和のみならず、ご家族および介護現場スタッフの精神的・肉体的な介護負担の軽減につながる事が期待される。

この（一社）老人病研究会、（株）舞浜倶楽部、（学）後藤学園の共創事業による鍼灸専門人材育成の実績をベースとして、平成 26 年度文部科学省委託事業において「超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材育成事業」の認定（代表機関：学校法人後藤学園）を受け、平成 26 年 7 月から医・介・鍼 3 分野連携による日本初となる本事業がスタートすることとなった。

一、事業の実施内容

1. 全国の地方自治体に対するアンケート調査

認知症対策に関する全国の地方自治体（1741 市区

町村）の取組実態および鍼灸などの代替医療・療法への認知度、期待度の調査を行った。

【調査結果の概要】

- ・地域における認知症取組はこれから本格化する。
- ・多職種連携へのニーズは高いが課題も多い。
- ・各種療法の中で鍼灸の認知度は低いが一定の期待度（47％）はある。
- ・既存の職種の連携だけでは限界があるとの指摘もあり（24％）、多様な認知症支援人材の育成と連携を望む自治体も少なくない（69％）。

【調査結果の反映】

- ・新たな認知症支援人材の 1 つとして認知症鍼灸専門人材を位置づける。
- ・多様な認知症支援人材育成を目的とした医・介・鍼 3 分野連携型教材の開発（日本初）
- ・介護福祉系との連携拡大・強化を目的に介護福祉系の認知症緩和ケア技術、コミュニケーション技術、症状別対応事例等の教材への導入

2. 認知症対応型モデル教材の開発

西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系の 3 分野連携のもとで、認知症に対する医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材育成のための教育プログラムを策定し、3 分野が一体となった 3 分野横断型の『認知症の人およびそのご家族を支えるための西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系 3 分野連携型モデル教材』（264 頁）の開発を行った。

① 西洋医学系教材の開発

認知症に対する神経内科、精神科、老年内科、リハビリテーション科、救命救急医療等の領域の最新の知識を習得させることを目的として、すべての分野で事例報告をベースとした実践型学習教材の開発を

行った。また、中核的鍼灸専門人材育成を目的とともに、今後の多職種連携の拡大と強化を目的としてコ・メディカル全般の人材が学習内容を共有できるように配慮した。

②鍼灸医学系教材の開発

認知症を脳だけのトラブルとしてとらえるのではなく、中国伝統医学（鍼灸医学）が一貫して重視している全人的・総合的な捉え方と実践ができるように教育プログラムを策定し、実践型学習教材の開発を行った。さらに認知症の人に対して鍼灸施術を安心安全に実施できるよう家族連携、施設連携のあり方、リスクマネジメントを含めた内容を介護福祉系WGと緊密に連携しながら、日本初となる認知症鍼灸施術サポートガイドを作成した。

③介護福祉系教材の開発

高齢者および認知症の人に対する日本の先進的な介護福祉に関する一定の知識や技術、および認知症の人に対する接遇介護法等を、事例を通じて学ぶ実践型教育プログラムを策定し、実践型学習教材の開発を行った。また福祉先進国といわれているスウェーデンの認知症緩和ケア理念についての基本的な知識を学べる教育プログラムも作成し、中核的鍼灸専門人材が多職種連携の中で活躍できるように配慮した実践型学習教材の開発を行った。

3、実証講座の開催（2回：参加者54名）

暫定教材を使って実証講座を2回実施してアンケート調査を行い、医・介・鍼3分野の講座の理解度・教材の有用性の評価、教材のIT化に向けた課題抽出を行った。

【調査結果の概要】

- ・本講座のような認知症講座に対する鍼灸師の受講ニーズは非常に高い（90%以上）
- ・鍼灸師の認知症の人への対応法、周辺症状に対する対応法修得希望率が高い（90%）
- ・3分野講座の理解度（70～80%）、有用性（80～100%）は非常に高い
- ・3分野教材の有用性は非常に高い（90～100%）

- ・鍼灸師の多職種連携の中での活動希望者は非常に多い（80%前後）
- ・認知症患者に対する鍼灸治療対応マニュアルの必要性（100%）

二、今後の展望

実証講座アンケート調査の結果から、本事業が推進する認知症対応型鍼灸専門人材育成のための潜在的な人的資源は豊富であり、また多職種連携の中での活動希望者も非常に多いことが明らかとなった。また、1741の全国すべての市区町村に対するアンケート調査の結果から見えてきたことであるが、既存の職種の連携だけでは限界があるとの指摘（24%）もあり、多様な認知症支援人材の育成と連携を望む自治体（69%）も少なくない。この実態を踏まえると、新しい認知症支援人材として認知症対応型の鍼灸専門人材を大々的に育成するためには、本事業により開発された3分野連携型モデル教材をIT化した学習支援環境の整備が急務であると考えられる。平成27年度文部科学省委託事業申請においては、「本モデル教材のIT化による学習支援環境の整備」というテーマで企画提案書を提出し、（一社）老人病研究会を中心として（株）舞浜倶楽部、（学）後藤学園との産学連携のもとで認知症対応型の鍼灸専門人材の育成を大々的に推進していきたいと考えている。

2025年問題の中では、認知症の人が700万人に達し、高齢者医療費も増大し21兆円になるだろうと言われている。とりわけ認知症の問題が最も深刻な社会問題となることは明白であり、エコ医療も必要とされる。国は平成27年1月27日に「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）を打ち出した。まさにこのような時代的ニーズ、社会的ニーズに応えるためにも、今こそ長きにわたり東洋医学が実践してきた統一体観（全体観）および予防医学の観点を重視し、多職種連携の中で高齢者や認知症の人に対して全人的・総合的な角度からサポートが行える鍼灸専門人材の育成が急務である。健康長寿の実現、健康寿命の延伸に向けて、今後ますます東洋医学が得意と

している予防医療、全人的・総合的なサポートによるご高齢者、認知症の人に優しいエコ医療が大いに期待されることであろう。

多職種との相互理解を深め、多職種との協働体制を作りながら、本モデル教材およびIT教材を有効に活用することができれば、下記テーマの実現が大いに期待される。

- ①認知症に対する東洋医学の考え方（予防法・対応法）の普及・啓発の推進
- ②認知症の人の容態に応じた鍼灸による全身調整をベースとした全人的・総合的な角度からの支援
- ③鍼灸による認知症の人の認知機能低下の抑制
- ④軽度認知障害の人のアルツハイマー型認知症への移行予防
- ⑤鍼灸による認知症の人のご家族および介護者への

支援

- ⑥東洋医学の視点からの鍼灸による認知症予防モデルの開発

- ⑦鍼灸による認知症の人を含むご高齢者の不定愁訴の緩和

【平成 26 年度・文部科学省委託事業・構成機関】

〔西洋医学系〕（一社）老人病研究会

〔介護福祉系〕（株）舞浜倶楽部（新浦安フォーラム、富士見サンヴァーロ）

（社福）敬心福祉会（池袋敬心苑、千歳敬心苑）

NPO 法人コミュニティケアネットワーク

〔鍼灸医学系〕（学）後藤学園、（学）敬心学園、

（学）呉竹学園

〔協力機関〕（公財）未来工学研究所、

（株）デジタル・ナレッジ

国島医院

院長：國島友之（日本内科学会総合内科専門医）

國島広之（聖マリアンナ医科大学）

杉浦杏奈（帝京大学溝口病院第 4 内科）

- ・内科
- ・循環器内科
- ・呼吸器内科
- ・胃腸内科
- ・小児科

循環器セカンドオピニオン、生活習慣病に関する健康相談

訪問診察、各種予防接種、乳幼児健診・成人病健診・老人健診

TEL(044)877-3871 <http://www.kunishima-iin.com>

診察時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00- 12:30	●	●	●	—	●	●	●
16:00- 19:00	—	●	●	—	—	●	—

日曜日は第 1・第 3 日曜日；祝日を除く

川崎市高津区下作延 3-22-7 P有り



認知症予防と治療 (I)

認知症 Gold-QPD 鍼灸師の検索サイトを設定

Gold-QPD 推進本部代表 川並 汪一

認知症 Gold-QPD 育成講座が満 6 年経過

Gold-QPD 鍼灸師となるために、西洋医学系（神経内科、精神科）の認知症とその周辺症状そして関連疾患を学んで頂きました。中医学鍼灸系では、加齢と認知症についての中医学的解釈を勉強し、実践トレーニングは三焦鍼法の開発者（韓景献教授）と Gold-QPD リーダー鍼灸教師から教えてもらいました。そして介護福祉系の勉強では、有料老人ホーム主として舞浜倶楽部（一部は和楽館）にて認知症高齢者と面談し、接遇法と介護の重要性について修得して頂きました。今では第 6 回育成講座が終了し合計 91 名の卒業生が全国各地で活躍中です。

そのような折に、文科省から、Gold-QPD 鍼灸師が学んだ「認知症教材」を編纂する事業の委託を受け、兵頭明常務理事が代表となり 1 年間かけて「本邦初の西洋医学・鍼灸・介護福祉連携教材」を完成しました。その記念シンポジウムを去る 2 月 9 日に私学会館アルカディアで開催しました。その際、教材は参加者と全国の鍼灸・関連教育施設に配布致しました。部数に限りがあり当日出席できなかった Gold-QPD の希望者には PDF ファイルを送付いたしました。

ところで近年、認知症を心配する本人とご家族が格段に増えています。しかしながら、身近に気安く相談できる機関が容易に見当たりません。

現在、コンビニ・ローソンでは「介護ローソン」を設定し、ドラッグストアと「一体型コンビニ」では簡易型血液検査（500 円）を始めました。薬局も「標準サービス」として気軽な健診セットを販売し、相談員を配置して地域ぐるみの健康相談を始めたようです。このサービスは生活習慣病をチェックするには、正にコンビニエントな設定となりました。

現在全国各地で活躍中の Gold-QPD 鍼灸師は、「認知症東西医学」と「認知症介護」を学び、「三焦鍼法」の特殊技能を修得したメンバーです。彼らは認知症

の基礎知識を広く吸収した人材であるため、市民に信頼されるコンサルタントとして役割を果たすことが出来ます。そればかりか認知症の予防と治療に従事し、患者さんの QOL を高める手助けができます。そうやってゆけば Gold-QPD は、認知症対策の相談役としてコンビニとは違う重みと信頼感で迎えられられると思います。そのような背景から、地域市民の身内として活躍できるよう推進本部は、Gold-QPD 鍼灸師の全国検索サイトを準備中です。ゴールドエンウィーク明けにはサイトのアップロードを完了する予定です。

Gold-QPD の三焦鍼法は認知症対策に著しい効果

Gold-QPD 鍼灸師の体験した症例報告（2011～2014 論文として公表）によれば、

1. 初回の鍼施術は、13%の患者さんが躊躇するか拒否した。キーパーソンを交え打ち解けるとほとんどが刺鍼を受け入れ、その後は喜んで施術を待つようになった。
2. 三焦鍼法を 4～5 回（週 1 回）続けると、患者さんは気分がスッキリし、落ち着くようになった。3 ヶ月を過ぎる頃は、うつ傾向も改善し対話が成り立ち、家族の顔を認識し、介護関係者に感謝を示すようになった。
3. アルツハイマー病の長期施術（最長 160 回以上）では、認知能テスト（MMSE）の低下は十分に抑制され、生活の質（QOL）が著しく高められた。それにより家族と介護士の負担が軽減し、関係者にも喜ばれる結果となった。

認知症 Gold-QPD 鍼灸師の全国検索サイトの設定

検索機能の流れとしては、

1. 認知症の家族・本人 ⇒ Gold-QPD 鍼灸師ないし推進本部に連絡
「認知症と周辺症状」、「認知症予防と治療」についての相談（電話、メール）

2. Gold-QPD 鍼灸師/本部 ⇒ 対象者の医療情報を総括し適切に返信または面談回答

3. Gold-QPD 鍼灸師 ⇒ 三焦鍼法で予防・治療の実施（訴えに応じ追加配穴で対応）

（推進本部は必要に応じ地域の Gold-QPD の紹介と、医療アドバイスを無料で提供）

推進本部アドバイス受付：info@tcm-kampo.com

ないし gold.qpd@gmail.com

まとめ

1) 認知症 Gold-QPD 鍼灸師は地域の人たちのため認知症のあらゆる相談を受け付けます。

その内容について解決策を推進本部と一緒に見つける努力をしましょう。

2) 三焦鍼法はどのような患者にとっても基礎的配穴として応用できる。とくに認知症の予防と周辺症状さらにメンタル疾患に著しい効果をもたらすことを Gold-QPD 鍼灸師が証明しました（文科省委託事業教科書参照のこと）。

3) 一般社団法人老人病研究会は、Gold-QPD 鍼灸師の全国検索サイトを設定し、超高齢社会の日常起きる難題解決に挑み、確実な成果を上げる地道な努力を積み重ねます。

認知症予防と治療（Ⅱ）

Gold-QPD 鍼灸師へ（検索サイトについて）

Gold-QPD 推進本部代表 川並 汪一

大切なお知らせ事項

- (1) 目的は認知症予防と周辺症状の緩和治療に三焦鍼法を積極的に応用して頂くこと。
- (2) 三焦鍼法は基本的に認知症を対象とする。
- (3) 地域の市民のため進んで病気のお話し（コンサルティング）をすること。心配な病状や難しい疾患については、本部がいつでも医療アドバイスを致します（無料）。
- (4) 本部から患者の受け入れを要請された場合は、Gold-QPD 鍼灸師自身が受け入れの可否をお決め頂いて結構です。事情に応じ適宜ご対応ください。
- (5) 受け入れ対象者には三焦鍼法と、さらに証に基づく追加配穴を行って下さい。
- (6) 施術の治療費は、各鍼灸師および関連施設の裁量により自由に決定して下さい。
- (7) 対象者の施術内容は、カルテ（モデルを送付済み）に記載し本部に報告すること。

- ・ 第1回目の施術時の症状、MMSE と N-ADL を測定する（クレジット5点）、（このクレジットは認知症の有無を問わず施術ごとに5点）。
- ・ MMSE と N-ADL の測定は、同一患者のときは初回とその後4回目毎に実する。
- ・ クレジット60点でゴールドコース1症例分として計上（初診患者さんのみでも合計12人で同等とする）。300点でゴールドコース修了、資格認定の対象とします（但し少なくとも1人は認知症を含む）。
- (8) この事業で得られるデータは、全ての Gold-QPD 鍼灸師が共有するものとする。

推進本部は Gold-QPD 鍼灸師と患者とその家族の連携ネットワークをつくります。そうすることで、家族が安心できる認知症対策（三焦鍼法）を提供出来るよう努めます。

(付録)

認知度評価スケール

(心配するご本人かご家族のためにご利用ください。)

<1>以下の()内に返答するか、該当する項目に○印をつけて下さい。(このチェックは認知症の診断用ではありません。判断の目安として参考にします。)

1. 現在お歳は()歳です。
2. 今日の日日は、()です。
3. 財布・通帳・衣類などを置き忘れ、探しものをよくするようになった。
4. 料理・片づけ・計算が遅くなり慣れた道にも迷うようになった。
5. 些細なことで怒りっぽくなり、まわりへの気遣いがなく頑固になった。
6. 1人になると不安になり、持ち物を何度も確かめ「頭が変になった」と訴える。
7. 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった。
8. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さず、ふさぎ込んでおっくうがるようになった。
9. 知らない人の声が、自分に何かを命令することがある。
10. 他の人には見えないのに自分には何かが見えることがある。

<2>認知度評価スケール(10項目の中で回答できないか該当する項目の総数)

0~1個→一般的には(65歳以上)歳相応な状態といえます。 <A>

2~4個→認知症の早めの予防と治療が必要と思われます。

5~7個→もの忘れと認知能低下が目立つのでしっかりした対処を要します。 <C>

とくに⑨~⑩→認知症周辺症状や他の疾患も疑われます。精神科治療を要します。 <D>

<3>評価度スケールの結果とその対策

認知症予防と治療に関する緊急度は D>C>B>A の順となります。

A、B群 ⇒ 三焦鍼法を2週に1度程度の割合で実施しましょう。

C、D群 ⇒ 三焦鍼法を毎週1度ないし2度実施することをお勧めします。

D群 ⇒ さらなるコンサルティングによっては専門医(病院など)を紹介します。

Gold-QPD と認知症 介護現場からのメッセージ

NPO コミュニティ・ケア・ネットワーク
一般社団法人老人病研究会

廉隅 紀明

テレビ、新聞等で認知症という言葉が聞かれない日がないほど、認知症高齢者への対応が大きな社会的話題となっております。特に、約 800 万人の団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に間に合わせた具体策が絶対に必要です。

さらに、急増する認知症高齢者の介護を引き受ける介護従事者は慢性的な不足状態となっています。我国では生産人口が 8000 万人を割り込んでおり、景気状況に左右されますが、あらゆる産業分野で人手不足の傾向になります。その中で、上述のように介護分野での人材不足状態は深刻化を促進する方向に突き進んでいると言わざるを得ません。

既に、介護難民、介護放棄、介護事故、行方不明、孤独死などの事例が報告されておりますが、このままでは、より多くの深刻な事態が頻発すると予想されます。

介護に関わる人たちの質量共に増強する方策を国レベルで総力を挙げて求めなくてはなりません。

現在の認知症治療では症状の緩和、進行具合を遅くする事は可能でも完治は望めません。

しかしながら、完治しないまでも症状の緩和により当人の QOL 改善はもとより介護者の負担軽減ともなるので、認知症サポーター養成など地域全体で見守る為の方策、認知症高齢者のためのグループホーム整備、認知症対応型デイサービス事業所整備、認知症認定看護師、専門医養成など様々な試みが行われております。また、同時に要介護状態にさせない、認知症にさせない介護予防、認知症予防の為の各種の試みも為されています。ウォーキング、体操、水泳等の運動、音楽療法、脳トレーニング等々がありますが、これらに加えて高齢者の免疫力アップを図り自立状態を維持する東洋医学的な対応が効果的です。

しかし、残念ながらあまり社会全般には広まっていないので、関係者たちは、様々な手段でより広く知らせる必要があると思います。

風邪を治す薬はなくても、自らの免疫力、回復力で完治するように、本来人は持っている免疫力を維持、回復する事で症状の緩和、完治が可能です。

申すまでもなく、東洋医学での施術、投薬は人が持っている回復力を引き出すとの考え方に基づいており、認知症状緩和、改善についても三焦鍼法を開発した天津中医药大学の韓景献先生を初め GLD QPD に関わった鍼灸師たちから一定の効果がある事例が多数報告されています。

先の国会で鍼灸師による介護予防が取り上げられました。国レベルで鍼灸師による高齢者への免疫力アップの為の施術が期待されるまでになっております。

この背景の一つに、国は 2020 年までに健康寿命の 1 歳引き上げる目標を掲げております。ちなみに、2013 年統計での健康寿命は男性が 71.19 歳、女性が 74.21 歳ですから平均余命の男性 80.21 歳、女性 86.61 歳との差男性 9.02 年、女性 12.40 年が健康状態ではない何らかの介護が必要とされるので、介護保険、健康保険に頼った日々を過ごす事になります。この期間が 1 年間短くなる事は本人の QOL 維持は無論のこと、家族を介護から開放し、介護保険、健康保険財政面に大きく寄与することになります。

治療のみならず介護予防に於いても効果がある東洋医学でのアプローチが期待されていることを広く認識する必要があります。

介護予防には適切な食生活、適度な運動、初期治療、当人の前向きな生活姿勢などが求められますが、鍼灸施術、マッサージ、漢方薬投与により、より大き

な効果が得られます。

以上の予防の為だけではなく、認知症高齢者への施術が中核症状の改善、周辺症状の緩和に効果がある事が報告されております。このことは、家族等介護者にとっても福音ですし、なにより当人の QOL 改善、維持に寄与することになります。

当老人病研究会が GLD QPD の名の下に三焦鍼法を主体とした認知症状緩和並びに改善を図る為の教育プログラムの実践は、まさにその先駆けとなっています。しかし、残念ながら東洋医学分野の従事者の多くは認知症高齢者への施術、治療を行っていません。

それは、認知症高齢者自らが治療院を訪れ施術を受けるケースは皆無に近く、治療者が認知症についての知識、関心が低い鍼灸師が通例であり、治療経験、機会がないので致し方ありません。

増える一方の後期高齢者、特に認知症高齢者と圧倒的に不足している介護者という環境下で介護予防、緩和ケアに効果がある鍼灸師を主体とした東洋医学者が家族を始め医療、看護、介護分野から期待されるのは自然の流れです。

ただし、鍼灸師が認知症高齢者を施術するには認知症を西洋医学的に理解し、三焦鍼法施術を習得するだけではなく、認知症高齢者との信頼関係を作ること前提となります。いきなり治療に入ることが出来ません。信頼を得るには受診者が信頼する人の存在とその方の協力が必要です。

ですから、こうした協力者の存在のもとに受診者が施術者を認め、受け入れるまでは治療に入らず、信頼関係が出来るのを待つ必要があります。

多くの場合、協力者がいないと施術に入れないと認識する必要があります。

認知症高齢者は不安、孤独感を抱いており、見知らぬ人に対して恐怖感を持ちます。やはり、受診者が心を許している家族、介護師、看護師、医師などの協力者とのコラボレーションが必要です。性急な施術は避け、信頼されるまで十分な時間をかける必要があります。

こうした経緯を経て施術者との信頼関係が出来ると、鍼灸施術でなんとなく気持ちがよい、頭がすっきりする、よく寝られるなどの効果で施術者との関係がより一層深まり、少々大げさかもしれませんが、家族と同等、或いはそれ以上に信頼されます。こうした関係の中での丁寧な施術は QOL の改善につながります。シルバーコースを受講されると以上のような患者さんへの接遇、家族、ケアスタッフ、ケアマネジャー等との協働作業の重要性が伝わってきます。

舞浜倶楽部では GLD QPD の第 1 回ゴールドコース卒業生の上垣内さんが毎週 1 回希望する入居者に施術してまいりました。

施術に先立ち、看護師、ケアスタッフと施術者が共通認識を持つ場を設けました。

自立高齢者を除き、入居者への施術には事前の家族への施術同意が必要ですが、舞浜倶楽部のケア担当者から声掛けをする事でスムーズに進みました。

認知症状により施術を拒否、躊躇する時は、決して無理をせず、会話だけか、受け入れられそうな場合軽いマッサージをして関係構築を図ります。

人それぞれの症状、性格にあわせた対応が必要ですが、その為にも家族、介護スタッフ、看護師、ケアマネジャーなどの協力を得ることが重要です。

こうした良好な関係が成立する事そのものが認知症状の緩和に繋がるとも言えますし、そこに丁寧な施術が重なり、より一層の効果があります。

施術者の技量だけではなく、よき接遇が求められる所以です。

また、こうした良好な関係が家族や介護従事者を東洋医学への信頼を深め、中には鍼灸師を志す人が登場しております。

この方は、レビー小体型認知症の親を治療する為、入院させたが、症状の改善が見られず、また、投薬による副作用もあって不信感が増大し、東洋医学に助けを求めました。

入院中に兵頭先生による鍼灸治療で改善が見られ、退院に踏み切られました。施設入居後も定期的な鍼灸治療を継続するのは無論のことですが、ご自身

が一念発起して鍼灸師を志し、鍼灸学校に入学されました。東洋医学の力量を表す一つの証だと思います。

以上の事例が示すようにコメディカルでのアプローチ、当人にとって相応しい環境設定が如何に大切であるかが以上の事例でも示しています。

治療にあたって、鍼灸施術単独よりも西洋医学上の投薬双方を合わせた治療効果が高い場合が多く、決して西洋医学的なアプローチを否定するものではありませんが、西洋医の中には東洋医学を否定的に捉える向きがあります。この傾向は明治の開国で優れた西洋医学を導入する時に東洋医学を排除した歴史的背景があるのでかなり現在でも根強く残っています。鍼灸治療では6疾患のみが保険対応とするなど現行の医療保険制度もその証の一つでしょう。

しかし、がんの痛みなどへの緩和治療をする西洋医が鍼灸を取り入れている事例が紹介されているように徐々に両者の距離が狭まっていると言えそうです。薬漬け、検査漬けではない、こうした試みは健康保険財政にも寄与します。

その意味においても GLD QPD 運動の展開は有意義です。

鍼灸を媒介とする施術者と患者とは西洋医学での診察時間と異なり長時間での関わりになりますから、孤独感が強い高齢者、特に認知症高齢者には、その時間帯は何よりの充実感、幸福感、安心感を齎します。施術中の世間話、患者の昔話、子供の自慢話に丁寧に耳を傾ける鍼灸師は家族や介護者にとっても力強い応援者、協力者です。心地よい鍼灸と丁寧な傾聴は認知症高齢者の心を癒します。結果として症状の緩和、QOL の改善となります。治療時間が極端に制限されている西洋医では出来ない、鍼灸師でしか為しえない“業”です。

西洋、東洋を問わず心身虚弱者、家族、介護者にとって医療関係者との連携は欠くべからざるものである事は言うまでもありませんが、中でも鍼灸師の皆様方の技術、接遇技術は特に認知症高齢者にとって福音となる存在です。

日本でも徐々に西洋医が東洋医学に拒否感を持つのではなく、一定の評価をする医師が見受けられるようになっているのも鍼灸師が今まで以上に活躍することを要請されていると思います。

増える一方の高齢者、特に認知症高齢者への鍼灸師の施術により症状の緩和、治療を明示すればまさに時代の要請に応える事になり、東洋医学分野の地位向上にもつながります。

既に、中国以外のアメリカ、イギリス、ドイツなどは鍼灸に対する関心が高く、研究されています。今までの伝統医学に居座っては諸外国の後塵を拝します。少子高齢社会只中の我国こそ認知症具体策を示す役割があり、従来のしがらみを排し東洋、西洋の垣根を取り払った患者主体の治療、ケアを早急に為さねばならないと思います。

認知症介護の現場にいる一人として鍼灸師の方々へのメッセージとして前向きに受け取って頂ければ幸いです。



『お知らせ』 国際商標登録の完了：

「益気調血・扶本培元法」から「三焦鍼法」(San Jiao Acupuncture)に

会長 川並 汪一

2011年以來毎年、私は韓景猷教授の關係する中国で開催された国際脳神経病学会や中西医結合国際学会に招待されてきました。2013年5月23日に泰安市で開催された国際脳神経病学会の際、これまで通称であった韓景猷式「益気調血・扶本培元鍼法」を、「三焦鍼法・San Jiao Acupuncture」として発表しました。それを契機に当会の金恩京参与の仲介により、韓景猷教授との合意の下でこの鍼手法の名称を国際的正式名としてロゴとともに採用することに同意いたしました。2014年11月9日に合意文書を正式に取り交わし(写真上)、登録手続きを完了しました。

今後は、認知症 Gold-QPD の基本手法・ロゴ(同下)は三焦鍼法・San Jiao Acupuncture ないし「Sanjiao Acupuncture」として独占的に使用されることとなります。よろしくご承知おきください



報告

3

その他の事業報告

1. 街ぐるみ認知症相談センター支援事業

①認知症市民公開講座 平成 27 年 3 月 21 日(土)、日本医科大学武蔵小杉キャンパス南館講堂。「もし認知症になったら～認知症の人と家族の生活～」参加者 140 名。当法人は後援と人的支援を行った。

②街ぐるみ認知症相談センターにおける業務支援
・毎週 4 日間、4 人の理事が交代で相談補助業務を行った。

③地域活動における支援

街ぐるみ認知症相談センターと共同により地域のイベントに参加し、認知症の早期発見の検査(毎回 80 名～100 名)及び認知症啓発活動を行った。

看護フェスタ in かわさき、中原区民祭、中原区福祉まつり、介護いきいきフェアなど。



介護いきいきフェアでの認知症早期発見の検査風景

2. 書籍販売

北村伸先生著書「加齢と神経内科の話」を健康の集いのアドの講演会を利用し、8 冊販売した。

3. 地域のご長寿健康づくり活動

「中原区老人クラブ連合会主催の体力測定検査」を過去 4 年間 日本医科大学スポーツ科学教室の武藤三千代准教授の指導で実施してきた。しかし本年度は日本医科大学 丸子校舎の移転に伴い実施出来なかった。

4. ホームページによる情報発信

本会の活動状況はじめ認知症に関する情報の発

信、会員の他に認知症 Gold-QPD 育成講座の修了者など。

5. 年報の発行

2014 年版(36 号)を 1500 部発行

会員はじめ関係者団体(専門学校、介護施設等)や学会開催時に参加者等に広く配布した。次回からは発行費節減のためホームページによる広報など発行方法の変更を検討中。

6. 文科省委託事業

本年度新たに後藤学園、敬心学園、(株)舞浜倶楽部との共同事業として「成長分野における中核的専門人材養成などの戦略的推進事業」として鍼灸部門連係教材を作成した。平成 27 年 2 月 9 日に市ヶ谷の私学会館アルカディアで発表会ならびにシンポジウムを開催した。

7. 熊本県東方医学研修会にて川並会長講演

日時：平成 27 年 2 月 21 日(土) 18:30～20:30

場所：熊本国際交流会館 4 階 第 3 会議室

主催：熊本県東方医学研修会(会長：長尾和治先生)

主題：メンタル疾患と鍼治療

熊本県の東方医学研修会は、ほぼ毎月のように定期講習会を開催し昨年創設 24 周年を迎えた。昨年 6 月に兵頭明常務理事が講演をした際、主催者側に川並会長の医学部時代の同級生金森正周先生が偶然おられ、その縁で今回は会長がご招待を受けるに至った。

この熊本県東方医学研修会の特徴は、長尾和治会長(みゆき病院名誉院長)、金森正周先生をはじめ鍼施術をする医師、漢方の得意な医師、薬剤師、鍼灸師、理学療法士その他で構成される。まさに医師と医療スペシャリストの連携実践の研修会と云えそうである。

認知症 Gold-QPD 育成講座の第4期卒業生後藤英二郎氏と第5期の内山昌子さんが聴講にみえ、元気に活躍されているお二方と歓談することができた。

懇親会では、医師の鍼灸実践者があつまる懇親会などを結成することで、鍼治療の応用範囲が広がるであろうなどと話合った。

【メンタル疾患と鍼灸治療】

一般社団法人老人病研究会 川並 汪一
テーマの伏線

2003年 アウトリーチ活動「街の人との座談会」を始めた。その業績により

2007年 文科省戦略的社会的連携活動助成金を獲得。

「街ぐるみ認知症支援ネットワーク」(5年間)で「認知症相談センター」を創設し無料相談を始めた(6000件を越えた)。家族、担当医、専門医、包括支援センターとの連携を今でも継続中。

2009年 認知症国際フォーラムを開催、「漢方と鍼灸が認知症に挑む」がNHK エデュケーショナルにてTV放映された。

2010年 「認知症 Gold-QPD 育成講座」を立ち上げ認知症専門鍼灸師約100名が卒業。第7回目は本年10月に開催予定(今回より医師の希望者も募集)。

2014年 文科省委託事業としての「成長分野の人材育成：西洋医学・鍼灸・介護連携教材」作りは去る2月9日に完成披露(私学会館アルカデア)した。

本日の講演内容

「認知症の早めの気づきと周辺症状の症例ご紹介」
(動画)

「認知症は西洋医学では脳の病気、東洋医学では五臓の病態」

「Gold-QPD 認知症専門鍼灸師の三焦鍼法教育」(動画)

「超高齢社会・メンタル疾患・老年症候群」

「ホームドクター、往診医、鍼灸師、介護士、ケアマネ、包括支援センター」などです。

結論

東洋医学の三焦鍼法は、音楽療法、音読、ドッグセラピー、ウォーキングなどと同じく

非薬物療法の一つで、とくに「健康長寿と認知症の予防と治療」に最適である。

<西洋医学には無い五臓の刺激による脳の活性化>を促す補完療法といえる。

欧米では医師自身が鍼灸施術を实践しておりわが国でも鍼灸施術の意義が再認識されつつある。「鍼灸 Acupuncture 教育」を漢方に次いで医学部コアカリキュラムに導入したい。

8. 新報道 2001 「がんと向き合う “選択”」

抗がん剤治療の副作用に対する緩和治療に鍼灸・漢方が取り上げられる。(平成27年1月18日フジテレビ新報道 2001 にて放映された)



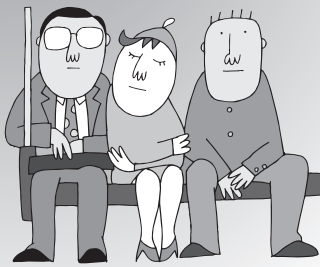
公衆衛生協会ビル3階 (Gold-QPD 本部)



患者さんと面談



鍼灸治療はがん緩和療法にも応用できる



essay

えっせい

随筆

随筆

ESSAY

老年よ、大志をいだけ

一般財団法人 博慈会 老人病研究所 福生 吉裕

老年である。老人ではない。65歳以上を老年期とすれば人口の25%をしめる。約3200万人。平均寿命は男性80才、女性86才。平均余命は男で19年、女では24年もある。さて、一方国民総医療費は39兆円にまで達した。今後の少子高齢化に伴う労働人口の低下がせまり、団塊世代が75歳に達する2025年には54兆円に達するとされる。これまでの社会保障システムの維持にははなはだ困難な要素が多い。せめて国民皆保険制度は次の世代まで残したい。それには“老年が大志を抱いて未曾有の世界に突入する勇氣こそ大事である”。

では大志とは何を言うのか。それは“死ぬまで生きる”、のである。生き活きとして動き、出来れば税金を払って活きたい。私の父は95歳で亡くなったが94歳までは税金を払っていた。流石に医師としては働けなかったが駐車

場経営、マンション経営などでそれなりに自立で生活をしていた。旅行、俳句、茶道具を好み子供からの扶助は受けなかった。サラリーマン医師の私の収入をあてにはしていなかった。葬儀の費用も別に貯えてあったので私の負担は少なかった。今思うと“子供はあてにしない”という大志を持った父親であったと思う。

【医療費の世代間格差を少なくする努力を】

ここで全国の入院ベットの占有率を見ると1984年では75歳以上の後期高齢者は約2割であったが2011年ではほぼ半数のベットが後期高齢者に埋められている。団塊の世代が75歳以上になる2025年では患者層は一変してしまうのうなずける。現に2011年の医療費の三分の一は後期高齢者が消費している。そして2025年には75歳以上が半分を消費すると予測されている。

この時になるとあのピケティもびっくりの世代間の医療費負担の格差が問題となってくるのは火を見るよりも明らかである。若い世代から後ろ指を指されて生きたくはない。高齢社会は幸齢社会でありたい。

意識が無いのに胃瘻や人工呼吸器による延命はご免こうむる。きちりと「無駄な医療は行わなくていい」とリビングウイルに示しておこう。それまでは自分の身体は自分で守っておくように勤める。そのガイドラインとして考えられるのが末病の概念である。誰でも60歳をすぎればどこかがたが来ている。健康と病気の間に末病の状態が続くのである。痛くも痒くも無い末病の状態である。自分お身体に鋭くしておけば見えてくる。慌てず受け止め病気にむかわしめないように、努力をする。これが末病ケアであり、ここに大志を見いだすのも団塊世代の知恵ではないであろうか。老年よ大志をいだこう。



武蔵小杉キャンパス・病院・研究所の変貌と武蔵小杉地区の発展

理事 湧口 泰昌

日本医科大学は、常に変革を求め、発展してきている。千駄木の付属病院は、昨年7月前期工事が終了し、15階建ての建築物の威容が現れた。後期工事の完了で、益々大きな病棟の完成が待たれる。

平成2年(1990年)に、老人病研究所と社団法人老人病研究会が、千駄木地区から武蔵小杉地区に移転してきた。以来、老人病研究会の活動のうち、老人病の啓発講演会は、東京に加え、武蔵小杉地区でも開催されている。

さて、日本医科大学武蔵小杉地区は昭和13年の病院建設以来、3つの土地が活用されている。一つは、前期過程の丸子校舎で、校

舎・体育館・テニスコートなど、二つ目は、学生が使うグラウンド。三つ目は、病院と研究所と旧丸子看護学校である。この3つの土地は、1箇所がほぼ7000～8000坪である。

前期過程は、平成26年4月に、武蔵境の日本獣医大学に移転した。今は、校舎も体育館も使用されて居なくてガランとしている。この土地には、平成29年に小学校が開校予定との事。二つ目のグラウンドの土地に、武蔵小杉病院が新設される予定である。建設基本計画も決まり、昨年来住民説明会が開催されている。新病院となれば、耐震はもちろん最新機能を備えた病院となろう。

平成27年4月1日より、老人病研究所は、「先端医学研究所」と名称が変更され、新たな歩みを始めている。6つの研究部門も、併せて名称変更がなされている(例：病理部門→病態解析学)。南キャンパスの門に掲げられていた「日本医科大学老人病研究所」という木製で墨で彫られていた看板は外されて、「日本医科大学先端医学研究所」の看板に変わった。今まで老人病研究所と老人病研究会は密接な関係で歩んできたが、今後の歩みは変化が予測される。病院・研究所の跡地は、約50階建てのマンションが2棟建設される計画である。

今や武蔵小杉地区の再開発は、目覚ましいものがある。JR武蔵小杉駅は、南武線に加え、4年前に横須賀線の新駅が開業した。JRの川崎駅、新宿駅、東京駅にも20分余で結んでいる。東急武蔵小杉駅は、渋谷まで13分、横浜へも15分で結んでいる。

そのため、武蔵小杉地区は住宅地としての価値が格段に上がっている。既に40～50階建てのマンションが、10棟以上が建ち上がっている。5～6年後には、その数は20棟近くになることが計画されている。医大モールのある新丸子駅は、現在各駅停車の電車しか止まらないが、商店街はがんばっている様子です。



平成 27 年度事業計画

1. 市民公開講座の開催

「健康の集い」－ 共催団体からの経費等支援により
開催する（川崎市中原区を中心に展開）

①第 24 回

日時：平成 27 年 7 月 12 日（日）
場所：ユニオンビル（富士通労働会館）
テーマ：「高齢者の救命医療で大切なこと」
講師：日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急セ
ンター松田潔教授
会費：500 円（資料代として）会員無料
定員：100 名

②第 25 回

日時：平成 27 年 11 月 29 日（日）
場所：ユニオンビル（富士通労働会館）
テーマ：「認知症」について
講師：日本医科大学武蔵小杉病院 北村伸 教授
会費：500 円（資料代として）会員無料
定員：100 名

③第 26 回

日時：平成 28 年 2 月 28 日（日）
場所：ユニオンビル（富士通労働会館）
テーマ：がんとその治療（仮）
講師：日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科：勝
俣範之 部長
会費：500 円（資料代として）会員無料
定員：100 名

2. 一般有料公開講座（認知症 Gold-QPD 育成講座 同日開催）（次ページポスター参照）

日時：平成 27 年 10 月 24 日（土）
場所：日本医科大学 同窓会館
講師：韓 景献 教授
テーマ：「認知症と高齢者の鍼灸治療」
定員：100 名
募集対象者：医師、鍼灸師、看護師、介護士、
医療福祉介護等関係学生
会費：3,000 円（会員、G.Q 受講生、医療関係
学生は無料）

3. 第 7 回認知症 Gold-QPD 育成講座の開催 （次ページポスター参照）

《ブロンズコース》（基礎編：今年度より鍼灸師＋医
師を対象とする）

日時：平成 27 年 10 月 24 日（土）
平成 27 年 10 月 25 日（日）2 日間
場所：日本医科大学 同窓会館
受講者：20 名
受講料：60,000 円

《シルバーコース》（実習編：医師用の鍼灸特別トレ
ーニング）

日時：平成 27 年 11 月 21 日（土）
平成 27 年 11 月 22 日（日）2 日間
場所：(株)舞浜倶楽部、東京衛生学園専門学校
募集定員：20 名
受講料：40,000 円

4. 街ぐるみ認知症相談センター支援事業

- ①認知症市民公開講座支援
平成 28 年 3 月 日（ ） 未定
- ②センターにおける業務支援
事務業務支援 毎週 4 日間
- ③地域活動における支援
地域でのイベントに参加し、認知症啓発活動
を行う。

5. 書籍販売

「加齢と神経内科の病気の話」 販売 20 冊

6. ホームページによる情報発信

- ・本会の実施事業等活動状況を公開発信
- ・本会の収支決算報告書の公開
- ・本会の年間事業報告を開催

7. 本会 年報発行

2015 年度版（第 37 号）の発行

8. 認知症 Gold-QPD 専門鍼灸師の紹介検索サイトの の立ち上げ（次ページポスター参照）

9. Medical Acupuncture Text (Medical Acup Text) の補完を模索

(1) 昨年度の目標であった Medical Acup Text-

10. Medical Doctors' Acupuncture (MD-Acup ;

12. 外部受託事業：認知症に関わる講座の開講

一般有料公開講座ポスター

第7回認知症 Gold-QPD 育成講座ポスター

認知症 Gold-QPD 専門鍼灸師の紹介検索サイト
<http://gold-qpd.com>

一般社団法人老人病研究会 会員名簿

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

役 員

会 長	川並 汪一	理 事	若林 庸道	理 事	直江 登	顧 問	馬越 正通
常務理事	北村 伸	理 事	グスタフ・ストランデル	理 事	大庭 建三	顧 問	浅野 伍朗
常務理事	兵頭 明	理 事	玉木 厚子	監 事	石橋 榮次	顧 問	漆原 彰
常務理事	廉隅 紀明	理 事	湧口 泰昌	監 事	上田 淳	顧 問	高橋 章
理 事	佐藤 貞夫	理 事	千代 勝彦	参 与	金 恩京	顧 問	渥美 和彦
理 事	黒川 顯	理 事	本田啓二郎	顧 問	赫 彰郎	顧 問	韓 景猷
理 事	中西 憲幸	理 事	野村 進	顧 問	田尻 孝		

個人会員

相本 隆幸	大久保賢治	熊澤清之助	鈴木 克行	中川 良雄	早川 弘一	山本 泰一
青木見佳子	大島美恵子	小泉信一郎	関谷 政雄	中島 一巳	原 フミ子	吉松 信彦
青木哲郎	大関 一郎	越野 立夫	惣道 和昭	中野 博司	人見光太郎	依田 安代
秋庭徳三郎	太田 成男	小林 和夫	園田 紀夫	長原 慶子	深瀬 富男	米澤千吉郎
新 博次	大林 完二	小林 敏郎	高野 照夫	中間 優	福生 吉裕	若林 完
厚見 昌平	大山 義之	小渕 善夫	高橋 弘	西根 晃	福永 慶隆	若林久美子
安室 尚樹	緒方 庸男	斎藤 敬	高橋 米子	西 昌臣	南 順文	若林 元
荒木 勤	勝又 忠臣	酒巻 久	高橋 睦美	野口 雄一	宮川 弘一	若林 潤
有賀 広	金原 和也	櫻井 正朝	武井 裕	野崎 琢史	宮坂 弘	和田 恒夫
石渡 明子	河村 良一	佐藤乃理子	武内 寛	野村 俊明	宮本 正章	渡辺 茂
猪口 正孝	木村 敦子	佐藤 幸夫	田嶋 健晴	初鹿野誠彦	向井 康祐	渡辺 和子
今村 道子	木村 一昭	佐藤 光男	田中 豊治	橋本 清	武藤三千代	綿引 義城
魚住 敏	北島 学	吉田 恭子	田中 勝	橋本眞太郎	村田 俊雄	綿引 義師
恵畑 欣一	久我 正文	嶋崎 宣孝	田中 洋一	橋本 英洋	村田ヒフミ	
遠藤 正達	國島 友之	島津 壽秀	筑後智恵子	服部 隆志	安田 達朗	
遠藤 一郎	國島 智子	清水 勤	鶴谷 孝	羽鳥 裕	矢部なおみ	
大川 共一	國島 広之	下館エイ子	戸張太啓寿	花村 裕之	山川 達郎	
大國 壽士	隈崎 達夫	鐘 良辰	中神 義三	羽生 仁	山下 精彦	

特別・賛助・団体会員

特別	エーザイ株式会社	団体	勝楽堂病院	団体	(社福)和楽会
賛助	浦安中央病院(高須 信美)	団体	神栖済生会病院	団体	(株)アサカワ保険事務所
賛助	(医)大宮中央総合病院	団体	医療法人清真会 介護老人	団体	(社福)照陽会 陽だまりの園
賛助	(社)有隣厚生会 富士病院		保健施設レイクヒルひぬま	団体	(医)健幸会伊藤クリニック
賛助	キヤノンMJ	団体	(株)京浜予防医学研究所	団体	(公益社団法人)川崎市病院協会
賛助	(株)リコー	団体	(株)医大サービス	団体	特定非営利活動法人 まちの灯
賛助	セイリン株式会社	団体	国島医院		
団体	日本医科大学同窓会川崎支部	団体	社団法人川崎市看護協会		

編集後記

年報とは年次報告を略した表現です。年次報告は、全ての団体（財団法人・社団法人）、企業、行政機関、学校などで、一年間の活動や収支決算を報告し、更に次年度の活動や収支決算の計画を示すものです。ある団体においては、種々の資料や情報を盛り込まれているものもあります。

インターネットの普及に伴い、年次報告を各団体のホームページで紹介されるような時代になってきております。

一般社団法人老人病研究会の年報 No.37(2015)では、印刷物での刊行の他に、本年度初めてオンライン発行も行うことにしました。

また公益法人の見直し事業に伴い、内閣府は各法人の情報公開の透明性をもとめています。その公開方法として、インターネットのホームページで行うことを勧めています。従って、当法人の収支決算関係の資料も本年度よりホームページに掲載しております。

老人病研究会を取り巻く環境や事業も年々変遷してゆきます。会員各位には年次報告を持って情報を公開し、ご理解とご支援を頂くべく、お願い申し上げます。

事務局 年報編集担当 湧口泰昌

老人病研究会年報 No.37

Annual Report 2015

2015年6月6日発行

発行者：川並汪一／発行所：一般社団法人老人病研究会

〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396

日本医科大学老人病研究所内

TEL 080-8837-0758 FAX 044-733-6688

印刷：株式会社パピルス

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-25-11

TEL 03-5215-7001

表紙題字：石川正臣先生（1891～1987）。学校法人日本医科大学理事長・学長、社団法人老人病研究会第2代会長（1974～1986）1954年に緒方知三郎が開設した社団法人老人病研究会の附属老人病研究所を1968年に日本医科大学に移管し所長を務めた。

Limited natural resources for everyone.

天然物にこだわり、技術を極める
すべては、人々の健康と未来のために

天然物から抽出・精製した多彩な製品

ブルーベリーエキス

カシスエキス

グリーンルイボスエキス

DHA・EPA

鉄クロロフィリンナトリウム

イチョウエキス

植物性ステロール

イソフラボン

ISO9001、GMPに基づく品質保証体制の確立



タマ生化学株式会社
TAMA BIOCHEMICAL CO., LTD.

本社 東京都新宿区西新宿1-23-3 〒160-0023
Tel(03)5321-6051 Fax(03)5321-6055



株式会社舞浜倶楽部

介護付有料老人ホーム 「富士見サンヴァーロ」

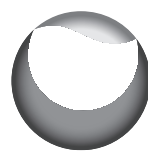
介護付有料老人ホーム 「新浦安・フォーラム」

小規模多機能型施設 「きはち」

認知症対応型デイサービス 「はじめ」

介護相談センター 「よろこび」

〒279-0023 千葉県浦安市高洲 1-2-1 TEL (047) 304-2400



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

www.daiichisankyo.co.jp

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



Presented by
OTOKO・NAIL®

ストレスと鬱対策のための企業向け福利厚生施設

🔍 適正休憩所

<http://tekisei-kyukei.com>

THE KAITEKI COMPANY

三菱クミカルホールディングスグループ

目の前の
あなたのために。
世界の
みんなのために。

一人を愛する気持ちで、世界も愛したい。そして田辺三菱製薬は、国際創薬企業へ。



田辺三菱製薬

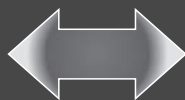
<http://www.mt-pharma.co.jp>

新宿漢方クリニック

院長 川並 汪一（日本医科大学名誉教授・一般社団法人老人病研究会会長）

西洋と東洋の医学を実践

現代医学は
病的細胞の摘出・修正



東洋医学は
細胞外間質のバランス調整

東洋医学（漢方と鍼治療）で治療、健康保険 / 自費診療をお選びください。

内科

アトピー

うつ病

適応障害

認知症特別
コンサルティング

舌診
スキャン

診療時間：火曜日～土曜日 午前 9:30 ～午後 6:30
休 診 日：日曜日・月曜日・祝祭日

所 在 地：〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-29-8 公衆衛生協会ビル 3F
電話：03-6273-2209 Fax：03-6273-2309 Email:kawanami@tcm-kampo.com
アクセス：地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅（2 番大木戸門出口～徒歩 4 分）
URL：<http://tcm-kampo.com/> ご覧の上ご来院ください。

健康にはより

医療機器認証番号:15500BZZ00805000

管理医療機器 単回使用医療器

SEIRIN®

Made in Japan

セイリン鍼

JSP
SEIRIN Point

新発売

4番鍼

太さ 0.23mm

鍼長:30mm

鍼長:40mm

鍼長:50mm

5番鍼

太さ 0.25mm

鍼長:30mm

鍼長:60mm

8番鍼

太さ 0.30mm

鍼長:50mm

鍼長:60mm

丸い鍼尖、充実したラインナップ
Jタイプと同じサイズが揃いました。

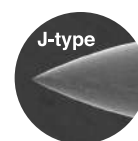


セイリン鍼は国内一貫生産の日本製です。

■JSP サイズ一覧

●●●●は追加サイズ (2014/10)

No.	02	01	1	2	3	4	5	8
カラーコード	ダークグリーン	グリーン	レッド	アイボリー	スカイブルー	ピンク	バイオレット	セピア
線径 (mm)	0.12	0.14	0.16	0.18	0.20	0.23	0.25	0.30
鍼長 30mm	●	●	●	●	●	●	●	
鍼長 40mm	●	●	●	●	●	●	●	
鍼長 50mm			●	●	●	●	●	●
鍼長 60mm					●	●	●	●



100μm

100μm



【警告】

ご使用に際しては、添付文書をよくお読みください。
添付文書が必要な方はお申し出ください。

■製造販売元

セイリン株式会社

ISO13485 認証取得

〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町1007-1

TEL.054-365-5700 FAX.054-365-5139

<http://www.seirin.tv>



0120-100890

(通話料無料ダイヤル)



公益社団法人有隣厚生会
富士病院
病院長 若林庸道

＜診療科目＞

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、大腸・肛門外科、整形外科
泌尿器科、小児科、皮膚科、婦人科、眼科、心臓血管外科、腎臓内科、透析内科
糖尿病内科、麻酔科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科、放射線科
脳神経内科、脳神経外科

〒412-0043 静岡県御殿場市新橋1784

TEL：0550-83-3333

FAX：0550-83-4835

＜関連施設＞

公益社団法人有隣厚生会 富士小山病院（99床）

公益社団法人有隣厚生会 東部病院（60床）

公益社団法人有隣厚生会 訪問看護ステーション“ごてんば”

公益社団法人有隣厚生会 グループホーム“ごてんば”

＜医師募集＞

当院は、静岡県東部にある公益法人が運営する一般病院です。
霊峰富士山の麓御殿場市の中心地にあり地域の急性期医療を
担っています。平成26年1月増改築工事完了、新しい環境で
最新の医療提供にスタッフ一同励んでおります。
良い病院ですので一度ご連絡を！



劇薬・処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 （薬価基準収載）

日本薬局方 ドネペジル塩酸塩錠

アリセプト® 錠 3mg
 錠 5mg
 錠 10mg

日本薬局方 ドネペジル塩酸塩細粒

アリセプト® 細粒0.5%

アリセプト®D 錠 3mg
 錠 5mg
 錠 10mg

〈ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠〉

アリセプト® 内服ゼリー 3mg
 内服ゼリー 5mg
 内服ゼリー 10mg

〈ドネペジル塩酸塩製剤〉

アリセプト® ドライシロップ1%

〈ドネペジル塩酸塩製剤〉

www.aricept.jp

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元



エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10

製品情報お問い合わせ先：

エーザイ株式会社 hhcホットライン

フリーダイヤル 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

ART1408M01